

1. 現在時制の基本的な用法

① 現在の状態

Our grandparents live in Kyoto.
 My mother works for a publishing company.
 She has one dog and two cats.

② 現在の習慣

I get up at seven every morning.
 My father leaves home at seven on weekdays.

2. 現在時制の注意すべき用法

① 一般的な真理, 社会的通念(諺など)は常に現在時制で表す

We were taught that the earth goes [~~×went~~] round the sun. (真理)
 He told us that time is [~~×was~~] money. (諺)

② 近い未来の確定的な予定(未来時制の代用)

The next train arrives in five minutes.
 I leave for America in June.
 ・現在進行形を用いることもある。
 I'm leaving for America in June.
 I'm going to Southeast Asia next month.
 =I'm going to go to Southeast Asia next month.
 ※既に決まっている予定・計画は be going to V で表すことができる。
 I'm going to live with my parents in Kyoto.

③ 時・条件・譲歩を表す副詞節中(×will)

As soon as I arrive [~~×will arrive~~] in Tokyo, I will call you up. (時)
 Let's wait here till he comes [~~×will come~~]. (〃)
 If he comes [~~×will come~~] back, I will ask him for some money. (条件)
 Whether it is [~~×will be~~] fine or not tomorrow, I will go out. (譲歩)
 ・時の副詞節を導く接続詞=when, before, after, till/until, by the time, as soon as, the moment/the instant/the minute, etc.
 ・条件の副詞節を導く接続詞=if, unless, suppose, supposing, providing, provided, etc.

④ 同様に, 時・条件などを表す副詞節中では未来完了ではなく現在完了を用いる

If you have done [~~×will have done~~] your work by five, I will take you to the concert.

※なぜこうした副詞節中には will を用いないのか。

一般に will は未来時制の指標とされているが、助動詞としての固有の意味も持っている。助動詞としての固有の意味と未来時制の指標としての will が微妙に重なるのが will の特徴であるが、このことは may や can についても同じである。

要するに、単純化して言えば、未来の指標としての will が表しているのは未来であるが故の「不確実性」である。表現を変えて言えば「推量」である。つまり断定を避けているのである。

したがって Tomorrow will be fine. であって Tomorrow is fine. ではないが、いっぽう Tomorrow is Sunday. は正しいことになる。

同様に、女性の出産予定は確定的な予測なので、She is going to have a baby in September. であって She will have a baby in September. ではない。

cf. Tomorrow is another day. と Tomorrow will be another day. 「今日は今日、明日は明日 / 明日は明日の風が吹く」

※この両者の違いは、前者の断定的な表現が往年の名画 Gone with the Wind 「風と共に去りぬ」の主人公、何事にも前向きな女性スカーレットの最後のセリフであることから察しがつく。

If it rains tomorrow, I will stay home. は「あす雨が降る（日本語としては降ったのほうが自然）場合には、私は外出しない(だろう/つもりだ)」

If it will rain tomorrow, I will stay home. は「あす雨が降るであろう場合には、私は外出しない(だろう/つもりだ)」

※実はこの例文は最も紛らわしい例である。③、④で挙げた「時・条件」の例文を見れば、will を用いるのが不自然なことは容易に納得がいくだろう。

つまり、時・条件の副詞節中に用いないのは「不確実性を表す」will であり、そうになると、②未来時制の代用（近接・確定未来）の持つニュアンスも納得がいく。

したがって、不確実性ではなく、主語の(強い)意志・固執・願望などを表す will は if 節中でも用いる。

If you will have your own way, you will surely cause trouble. 「自分の思い通りにしようとするれば、必ず問題を起こすだろう」(固執)

cf. A drowning man will catch at a straw. 「溺れるものは藁をも掴む」

この will が表しているのは「未来=推量」ではなく「強い意思・固執→習性・傾向」(諺で用いる will) である。

3. 現在完了の注意すべき用法 (完了・結果・経験・継続)

① 「結果」は「完了の結果として生じている状態」を表している

Winter is gone, and Spring has come. ≒ Winter has gone, and Spring is come.

・「結果」の場合だけ、have [has] の代わりに be 動詞を用いることがある

② 進行形にできる動詞の場合の「継続」は、原則として現在完了進行形で表す

It has been raining for five days. (まだ雨が降っている場合)

It has rained for five days. (もう雨が止んでいる場合)

※It has rained ... は、常に「もう雨が止んでいる」ことを示すわけではない。以下にその用例を挙げておく。

My father mentioned that we had suffered through several days of rain and were likely to have good weather.

「何日も雨に祟(たた)られたのだから、もう天気はよくなるだろうと父が言った」(2002年 東大・前期) この文の時制を現在に変えると

My father mentions that we have suffered through several days of rain and are likely to have good weather. となり今はまだ雨は止んでいないのだ。

cf. My father mentions that we have been suffering through several days of rain and the bad weather will continue.

「ここからも降り続ける」と予想している場合には、現在完了進行形が相応しい。

※ただし現在完了進行形を、完了するまでの継続に重点を置き、すでに完了している行為を表すのに用いる人もいる。

③ 進行形にできない動詞の場合の「継続」は現在完了形で表す

I have known him for ten years. 彼とは10年来の付き合いだ。

×I have been knowing him for ten years. (誤)

④ 現在完了は今現在を基準としているために、過去を明示する語句や、時を問う疑問詞の when と共に用いない

・過去を明示する語句=yesterday, four days ago, jyust now=a short time ago, etc.

4. 過去完了の用法

① 基準となる時が過去に変わるだけで、現在完了の4つの用法(完了・結果・経験・継続)に準じる

② 大過去(先位過去)=過去の2つの行為・出来事のうち先(前)に起こったことに用いる

(1) He said that he had seen her a week before.

(2) The movie was more exciting than I had expected.

(3) I lost the watch which he had given me.

※(2)と(3)の場合には、大過去の代わりに過去時制を用いることもある(本来は避けたい表現である)。

The movie was more exciting than I expected.

I lost the watch which he gave me.

※after, before のようにそれ自体が前後関係を表す接続詞がある場合には、過去時制も用いる。

I left home after I called [had called] him.

※過去の出来事を、起こった順に述べるときは、すべて過去時制で表せる。

He gave me a watch, but I lost the watch.

5. 未来完了の用法

① will have -ed (継続の場合は will have been -ing) の形を用いる

② 基準となる時が未来に変わるだけで、現在完了の4つの用法に準じる

You will have seen the world to some degree when you are twenty.

「二十歳になれば、ある程度、世の中のことが分かっているだろう」

※完了・結果ともとれるし、経験ともとれる。未来完了に限らず完了形一般に言えることだが、常に用法を限定できるわけではない。複数のニュアンスを兼ねていることもあるからだ。

6. 原則として進行形にならない動詞

① 状態動詞：一時的な動作ではなく、ある程度継続的な状態を表す動詞

be, seem, have(持っている), own, possess, belong to, resemble [take after], mean, contain, depend on, consist of, lie in, etc.

② 無意志動詞：人間の知覚/心理・感情/知識・理解など、主語の意志とは無関係に生じる状態を表す動詞。したがって① 状態動詞 の一種とも考えられる

see(見える), hear(聞こえる) / want, wish, hope, like, love, hate, fear, think, believe / know, understand, etc.

※ただし、こうした動詞が意味の変化に応じて進行形になることはある。

I am depending on you. (一時的な状態)

I am loving you. (一時的な心理・感情)

I am hearing the music. (無意志動詞→意志動詞)

I am thinking about the matter. (")

7. 時制の補足：Tense(時制)と Aspect(相)について

・いわゆる時制の基本は、英語も日本語も現在時制と過去時制であり、英語ではある時期から、未来時制を表す指標としての will [shall] が確立(?)されているが、日本語には明確な未来時制の指標は存在しない。

しかし、ここで触れておきたいのはそのことではなく、進行形と完了形についてである。

・現在進行時制とか現在完了時制という用語を(不用意に)用いている参考書もあるが、あえて現在進行形とか現在完了形という言い方をしておいた。

もっと正確な(?)文法用語を用いれば、進行相あるいは完了相という言い方もある。

結論を言うと、現在進行形や現在完了形は必ずしも「現在」という時に制約されているわけではない。

I am happiest when I am playing the guitar.

「ギターを弾いている時が一番楽しい」(いまギターを弾いているとは限らない)

We cannot eat once again what we have eaten.

「食べてしまったものをもう一度食べることはできない」(いま食べ終わったという意味に限らない)

※一般的な事実や日常の習慣を現在時制で表すことを考えれば、何も特別なことではないが、現在に制約されない一般的な「完了」を表す現在完了は、英作文には欠かせない表現である。